

『禅のこころ-曹洞宗-』

『正法眼蔵』「道心の巻」

平成29年7月第1週放送

大本山永平寺を開かれた道元禪師が著した『正法眼蔵』は、日本を代表する宗教思想書といわれ、一般的に九十五巻であるとされています。禪師はこの本を、百巻として仕上げる予定でしたが、病に倒れ亡くなられたことにより叶わず、後に弟子たちが編集して残し今日に至っています。

本日はその中の「道心の巻」を紹介いたします。「道心」とは、“道”の“心”と書き、道とは仏の道、つまり仏道を指します。仏道を求めるにはまずこの道心、つまり真理を求める心が必要であると、道元禪師は示されました。

この巻の冒頭には、真理を求めるにあたり、お釈迦さまがお説きになられた教えを優先しなさいと厳しくお示しになっています。

この「道心の巻」には、仏道修行を行う上で大切なことが述べられています。

その最初は、三寶供養です。三寶とは「仏法僧」の三つの宝、つまり「仏・仏の教え・仏の教えを守り伝える仲間」のことです。寝ても覚めてもこの「三寶」を思い、唱え奉るようにと説かれています。お唱えをする言葉は、「南無帰依仏・南無帰依法・南無帰依僧」で、信仰のあらわれとも言えます。この言葉は、髪の毛を剃り、僧侶になる時に唱えるお誓いと同じものであり、心からお唱えをするようとお示しです。

次は、一生のうちに仏像を造るよう努力するべきであると説かれ、三番目は『法華経』を写経し大事にしなさいと説かれています。

そして最後に、お袈裟をかけて坐禅をしなさい、と説かれています。

『正法眼蔵』は、多くは修行僧に向けて説かれたものです。それは、道元禪師がお悟りの境地を余すところなく伝えるために残されたものなのかもしれません。

この「道心の巻」は、修行僧ではなく一般の方に向けて説かれたものだといわれています。この巻を読むと、道元禪師は「みんなお坊さんになりましょう」とお示しになっているように感じられます。修行僧をたくさん育てた道元禪師らしい教えではないでしょうか。

道元禪師の記された原文は大変難しいものですが、現代文に解説された『正法眼蔵』の書籍も出ておりますので、ぜひ一度お手にとられてみてはいかがでしょうか。

— 終 —